

介護老人保健施設 しおさい

症例概要 ご利用者：70代 女性 要介護2

病 名：左大腿骨頸基部骨折

利用サービス：令和2年12月～現在

経 過：約60年社会との関わりもなく長年過ごされていた方が、令和2年から当施設通所リハビリテーションをご利用になり第三の人生を歩み始めた。社会に出た事で、他ご利用者と過ごす中で、「買い物に行きたい」という目標が出来、目標に向けてリハビリに専念し、車椅子レベルから押し車での歩行が可能となり、人生で初めて自分で選んで買い物をする事が出来、自分で買う事の喜びや達成感をもたらした症例。

内 容

ご本人は、中学卒業後、社会との関わりがほとんどなく、約60年自宅でご家族と過ごすという閉鎖された空間で過ごされてきました。令和2年から当施設をご利用することになり、60年ぶりに社会交流をされ、最初は馴染めずにはいましたが現在は第3の人生を楽しんでいらっしゃいます。通所リハビリテーションのご利用が4年近くになり、自信がついてきたのか、担当者会議の際に、ご本人から「買い物に行きたい」「パンと飴が買いたい」とのご希望がありました。ご家族は「とても心配で無理です。」とのことでしたが、ご本人の思いに寄り添いたい、希望を叶えたいと思い、地域ケアマネジャー協力のもと買い物に挑戦する事になりました。目標達成に向けて、まずは車椅子からU字歩行器、押し車へと移行するために、リハビリ職員と練習を行いました。同時に、体力をつけるため施設内歩行練習や歩き方の指導、職員との個別訓練を重ねてきました。最初は曲がるのが苦手でしたが、徐々に歩行技術も向上し、買い物カートを使用できるまでになり、在宅主治医やリハビリ担当者からも外出許可が出ました。身体的なリハビリがクリアしたので、今度はお財布にお金を入れ、お会計の練習も行いました。練習している間は初めての買い物に対するわくわくと、スーパーで買い物出来るのか不安が入り混じっている様子でした。いざ実際に買い物に出かけると、初めてのカートに戸惑いがみられましたが、上手く操作し目的地へ移動。パン屋さんでは一目散にぶどうパンに手が届き、飴のコーナーでは大好きな飴を手に取り、満足そうでした。会計も練習の成果が出て、スムーズに行うことができました。初対面の人とも言葉を交わし、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることもできました。施設に戻ってからは、職員に何を買ってきたのか、お買い物の様子を、しばらく興奮した様子で楽しそうにお話しされていました。

ご家族も、以前は考えられなかった、日々変わるこの変化に驚かれ「施設を利用して本当に良かった」と喜んでおられ、普段は離れて暮らす妹たちも、「来る度に明るくなっていく姉の姿を見るのが楽しみで

す。」と、嬉しいお言葉をいただきました。「今度は妹達と買い物に行っている物を買いたい」と次なる目標も話してくださいました。今後ご本人の思いに寄り添い、願いやご希望の実現の為、親身な対応を続けご支援していきます。